

启林館
— 知が啓く。 —

本社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号

電話 (06) 6779-1531

東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号

電話 (03) 3814-2151

北海道支社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階

電話 (011) 271-2022

東海支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階

電話 (052) 231-0125

広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1丁目10番19号日本生命広島光町ビル6階

電話 (082) 261-7246

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号ハイヒルズビル5階

電話 (092) 725-6677

<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

もくじ

はじめに

・はじめに	1
・生活科の授業づくりを始める前に	2
・生活科 現行の学習指導要領のポイント	3
・見通しをもって生活科の学習を進めるポイント	4
・生活科の視点から見た教室環境のポイント	8
・伝え合い活動を充実させるためのポイント	10
・幼保小連携を充実させるためのポイント	12
・気付きの質を高める授業づくりのポイント	14
・中学年以降の学習とのつながりのポイント	15
・生活科の指導におけるICT活用のポイント	16
・生活科におけるものづくりのポイント	18
 ～資料編～	
・切る	20
・貼る	22
・あける	24
・保護者や地域の協力を得るために	26
・おもちゃを通して交流する場のつくり方	27
・飼育活動を通した生き物とのふれ合い	28
・楽しく飼育活動をするために	30
・栽培活動を成功させるために	32

生活科が小学校低学年の教科として誕生して、30年以上が経過しました。若い先生方は、生活科を小学生のころに体験された世代にあたります。しかし、ご自身が生活科を体験してきたから、生活科の指導においても戸惑いや不安がないかというと、そうではないようです。

大学での生活科指導法の授業の中で、生活科を指導するにあたっての心配なことは何かと聞くと、次のような回答が返ってきます。

- ・生活科の授業のイメージがわからない
- ・生き物を扱うことが不安
- ・生活科と理科や社会科、図画工作科、家庭科はどう違うのかわからない
- ・生活科の授業はアイディアが必要だけど私にはない
- ・一人ひとりの興味や関心を大切にするって難しそう
- ・保護者や地域の人の協力をどうやって得ればいいのか など

生活科を自分で経験しているからといって、指導になるとまた別の話になるのです。若い先生方はこうした不安や戸惑いを抱えながら、子どもたちと学習をつくっているようです。

こうした生活科の授業をつくっていく上での課題を少しでも克服できればと願って、本書の発刊を企画しました。

本書では生活科の教科特性を具体的な事例や写真・図版などを用いてできるだけわかりやすくお伝えしています。また、特に若い先生方に、「気付き」「体験」「伝え合い」「交流活動」など生活科の授業のポイントとなる内容を理解していただき、安心して実践を進められるよう紙面を構成しました。

生活科は子どもたちと一緒に教室の暮らしをつくっていくことができる教科です。

自然と関わり、人と関わり、未知の世界の発見に心が動かされるという経験が、子どもの心を耕し、学ぶ意欲を育て、知識の芽を開花させる大切な土壌となります。

-
- ・先生方の提案する活動が子ども一人ひとりにとってどんな価値や意味をもつか考えてみましょう。
 - ・子ども一人ひとりのつぶやきや活動に心を寄せてみましょう。
 - ・子どもと一緒に学習をつくっていく喜びを感じてみてください。
 - ・子どもだけでなく先生も自分の変化や新しい自分に気付いてください。
-

本書が、子どもとともに成長する教師になっていくために、少しでも貢献できれば幸いです。

生活科の授業づくりを始める前に

○ 生活科の授業づくりを始める前に確認しておきましょう

○ 地域を知っていますか？

自然素材が地域のどこにあるか、いつ頃活用できるか、地域にどんな公共施設があり、ゲストティーチャーがいるかなど、具体的に把握しておきましょう。

○ 子ども理解を心がけていますか？

日々から子どもの遊びや生活の様子、どんなことに興味や関心があるかをていねいに観察し、子どもの理解を深めることが大切です。

○ 生活科を楽しもうとしていますか？

新しい発見や想定を超える子どもの発想に、「すごいね」「そうなんだ」「おもしろい！」と共感し、子どもと一緒にワクワクする気持ちをもちましょう。

○ 生活科を学級の生活にしていこうとしていますか？

朝の会や帰りの会を大切にしましょう。生活科につながる話題が出てきます。
子どもたちは、休み時間や放課後でも生活科の活動のことを話してくれ、学習が日常の課題となり、学級の生活が生活科につながるのです。

○ 教科書と上手に付き合おうとしていますか？

教科書には、活動のヒントがたくさんあります。
活動のイメージをもたせたり、多様な活動例を参考にしたりできる良さがあります。学習の進め方や活動する際の留意事項などを学ぶこともできます。

○ カリキュラムとして取り組もうとしていますか？

表現では、国語科や図画工作科、音楽科などの教科に、生命の視点からは道徳科、そして話し合い活動は学級活動（特活）に関連させることができます。
生活科は低学年における他教科・領域などすべての分野と関連させた学習が可能です。

生活科 現行の学習指導要領のポイント

1 資質・能力の育成を重視した教科目標

具体的な活動や体験を通して、**身近な生活に関わる見方・考え方**を生かし、**自立し生活を豊かにしていくための資質・能力**を育成することを目指す。（太字部分が変更点）

言葉と体験を重視した前回の改訂の上に、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的になるように見直されました。

2 幼児期の教育・中学年以降の学習とのつながり、各教科等における学習との関係性とのつながりの一層の重視

幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。
幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続、発展させること。

各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することや、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことが明示されました。

3 「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かし、主体的・対話的で深い学びの実現を図る

「身近な生活に関わる見方・考え方」：身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようすること

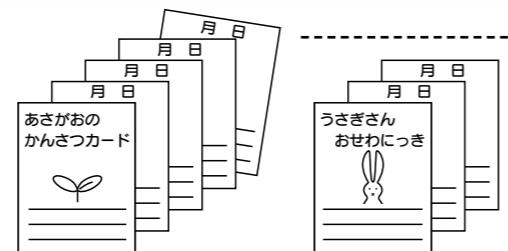
児童自身が既に有している見方・考え方を発揮したり、学習過程において、見方・考え方が確かに、一層活用されたりするようになります。

具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようになります。気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を重視します。

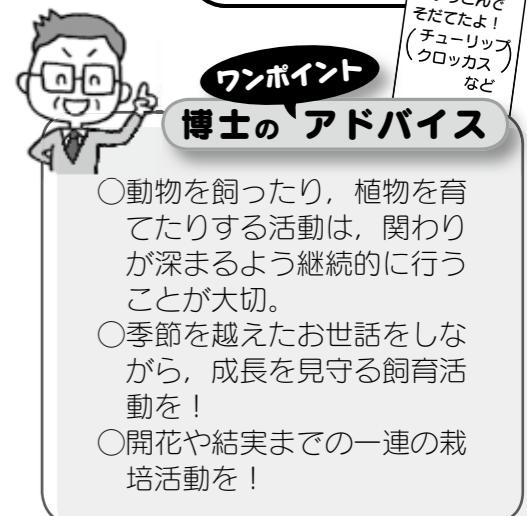
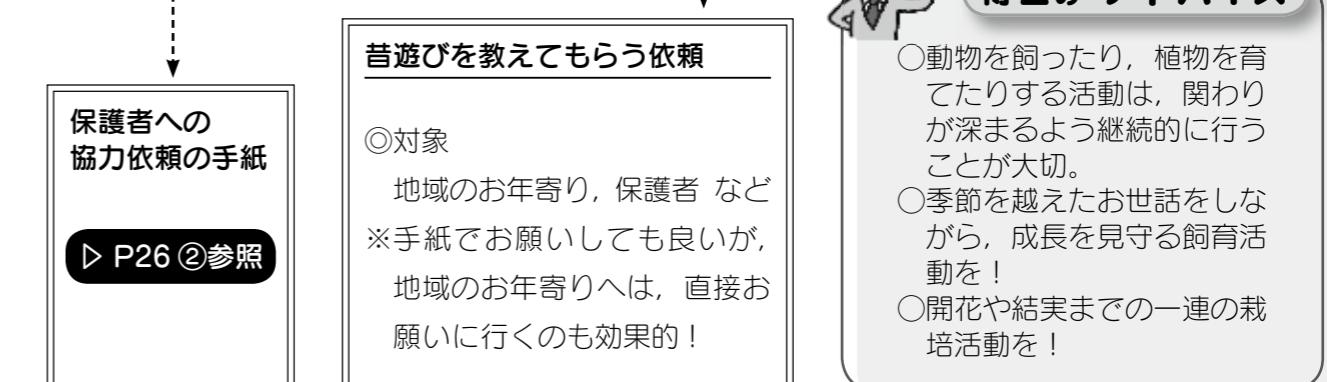
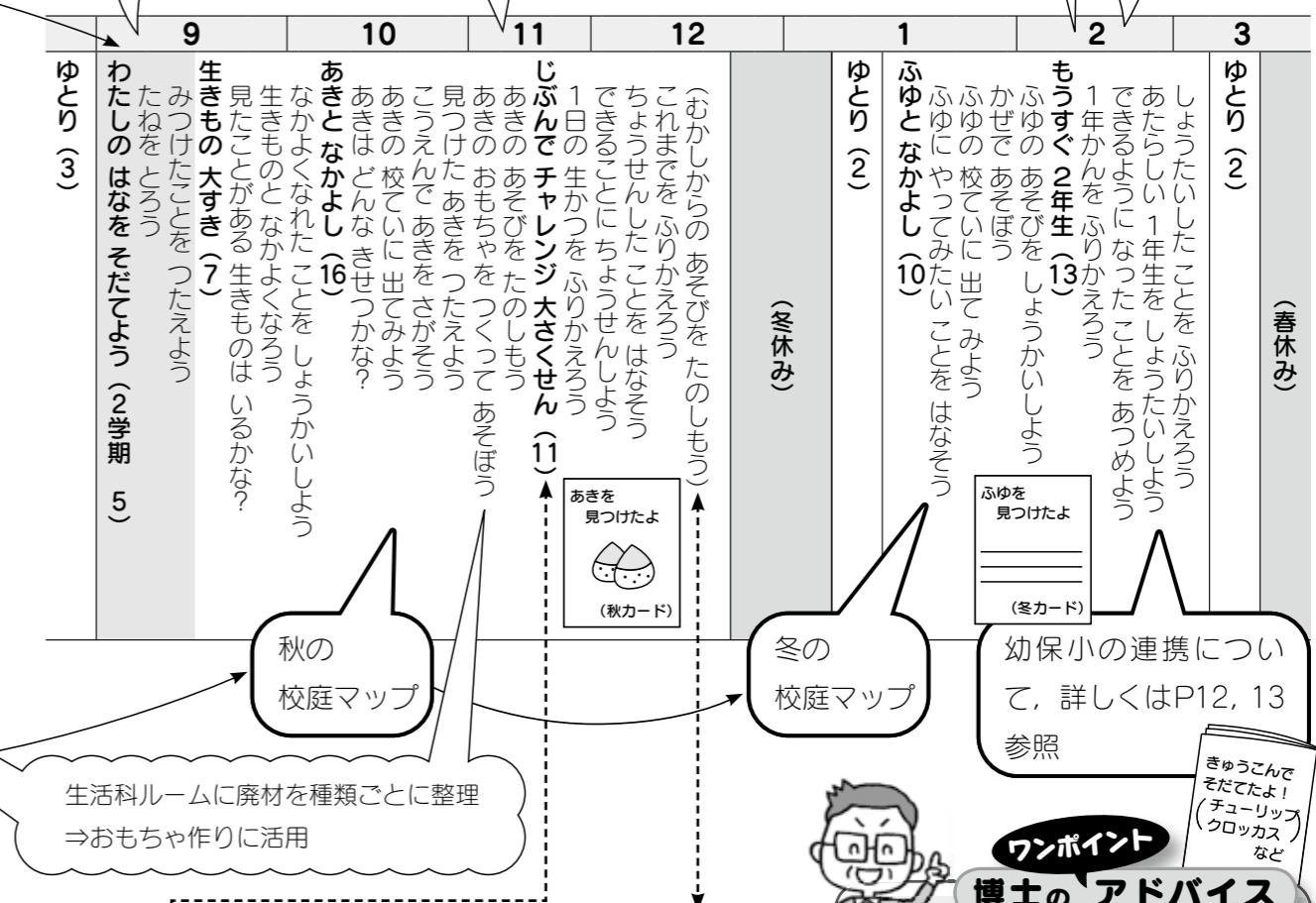
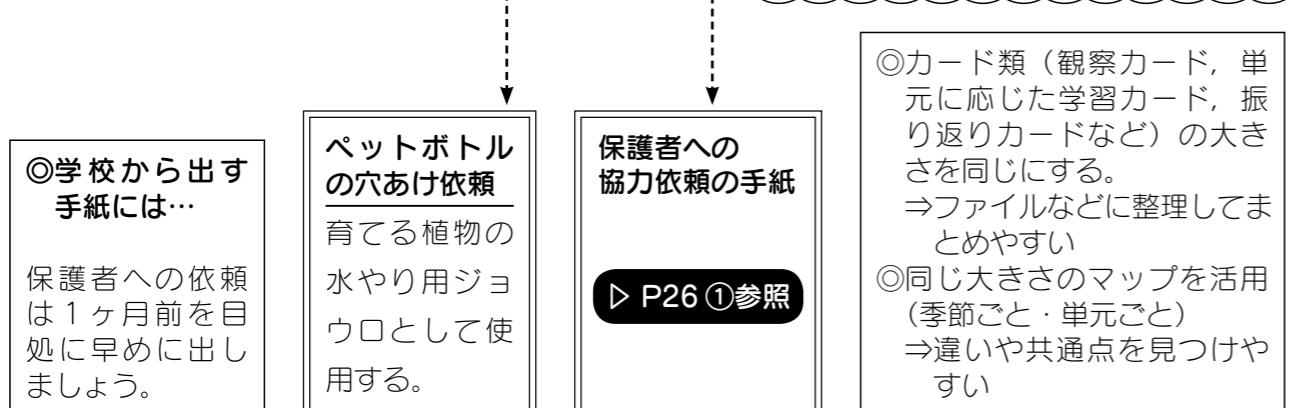
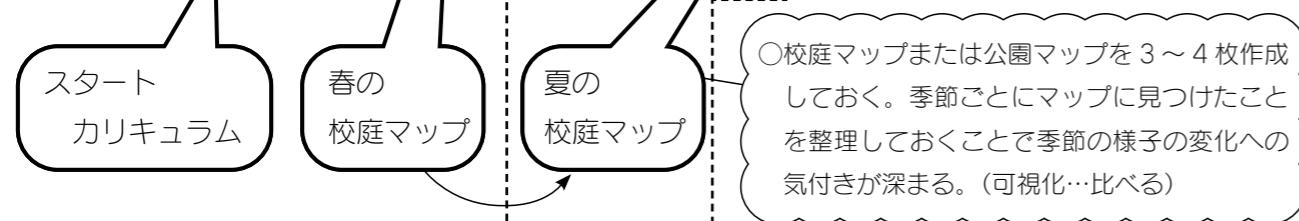
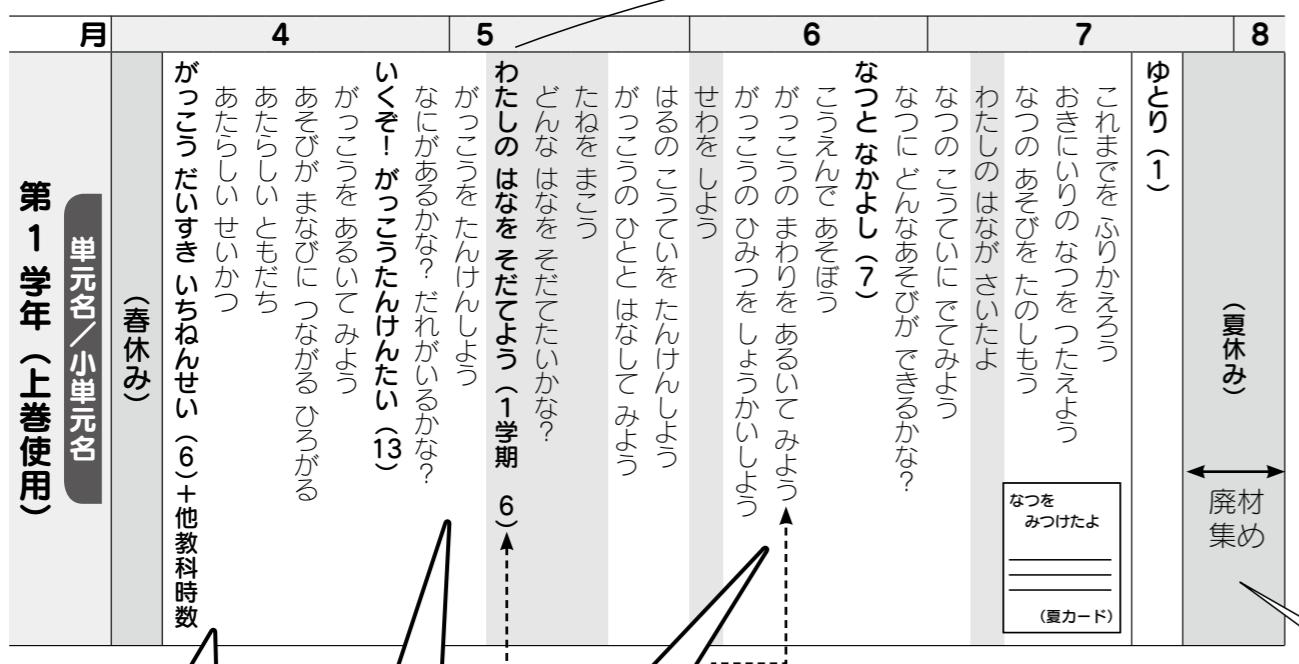
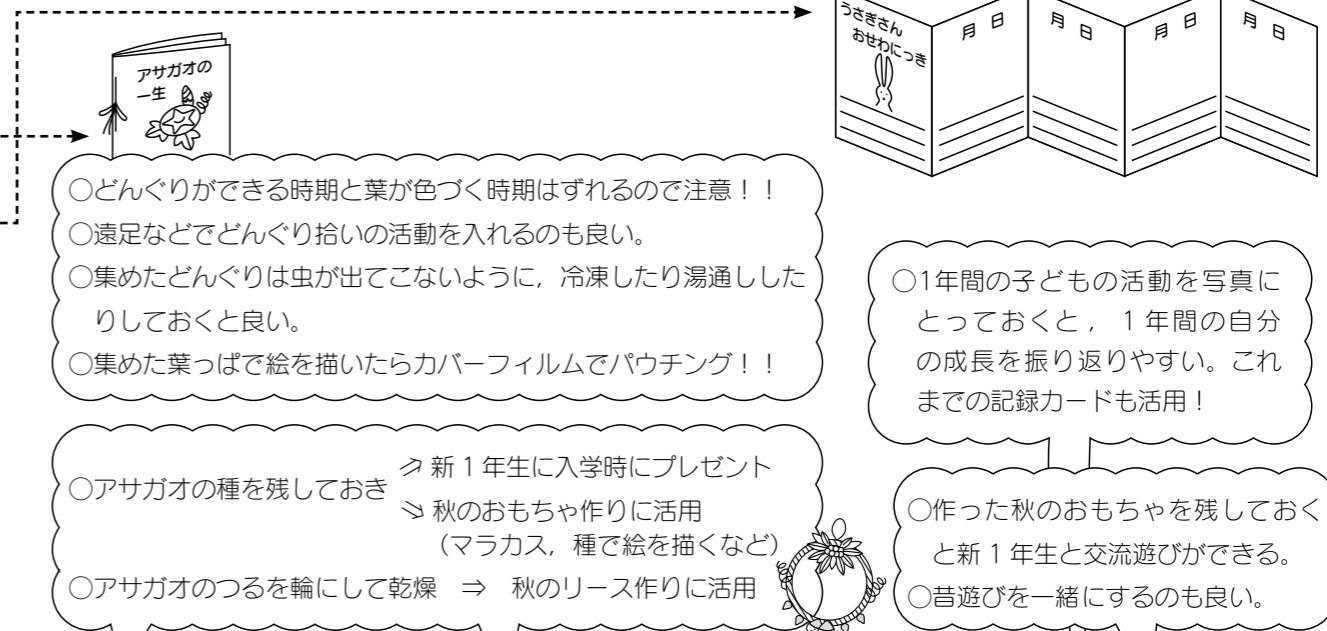
主体的・対話的で深い学びの実現のためには、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなどし、気付きの質を高めることを意識することが大切です。

見通しをもって生活科の学習を進めるポイント

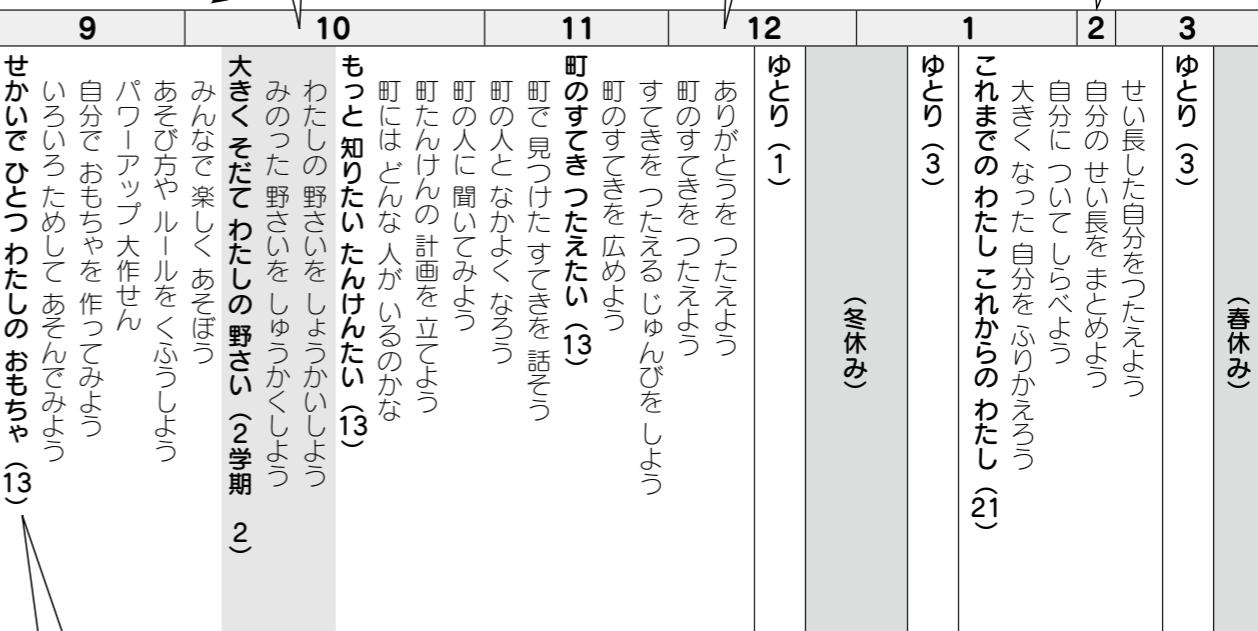
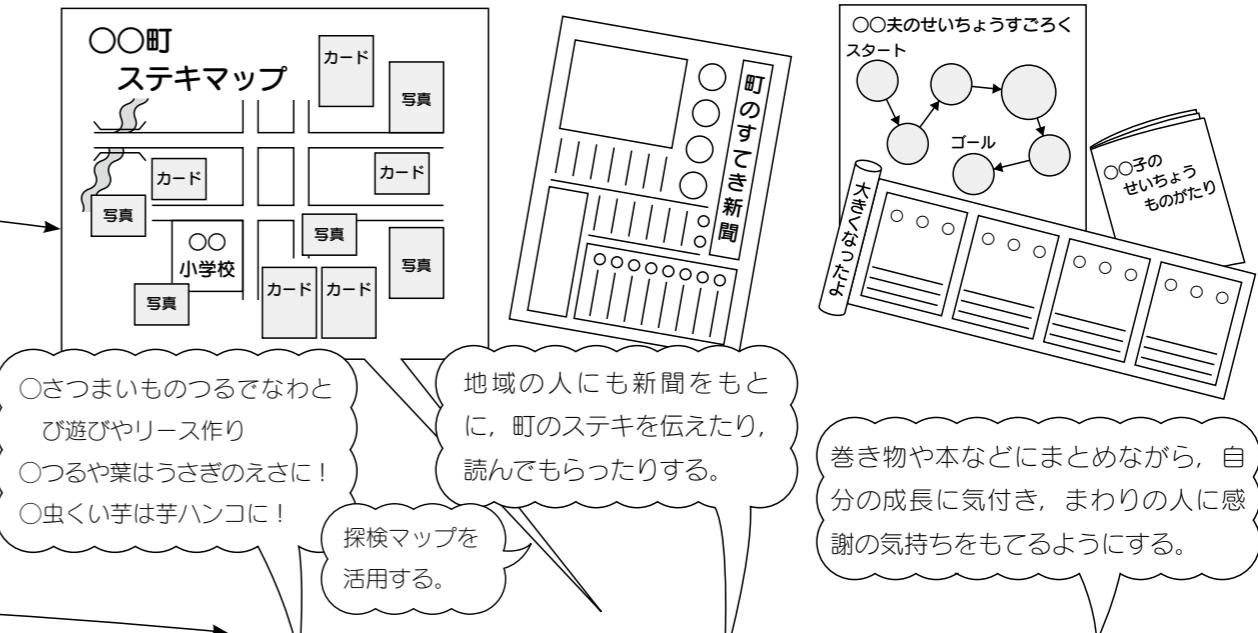
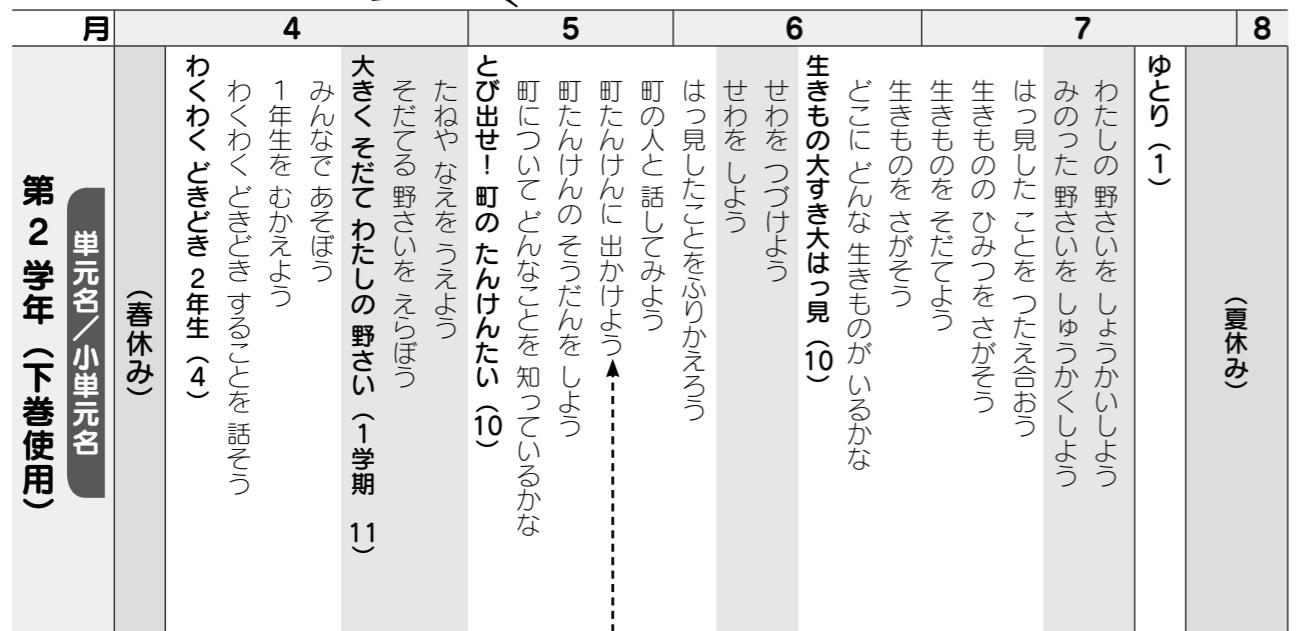
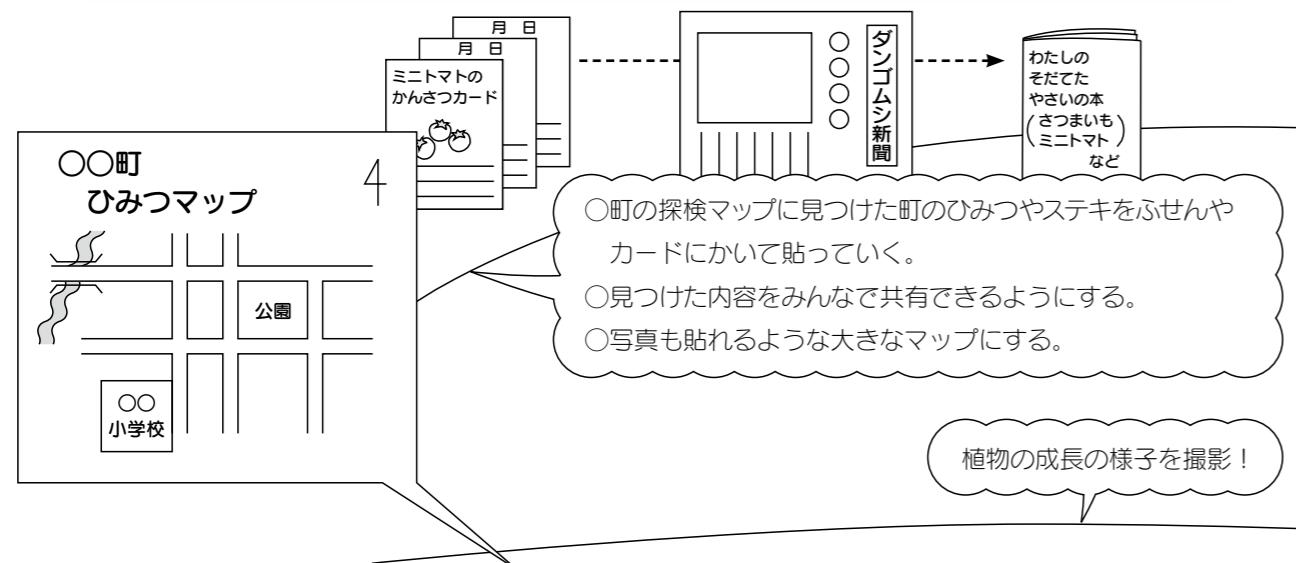
生活科の学習を進めるにあたっては、単元と単元のつながりや関係を意識し、2年間を見通して、学習が関連をもって継続・発展していくよう計画をしっかりと立てて進めていくことが大切です。



- 植物の成長を撮影 ⇒ 振り返りに活用
- 咲いた花を押し花に（カバーフィルムの活用）
- 色水遊び用にアサガオの花を冷凍保存



見通しをもって生活科の学習を進めるポイント



- 図画工作科と合科で製作活動
- 他学級や他学年、幼保との交流も可能

◎人材について……

- ◎地域の人材発掘のためには、担任が地域を歩き、地域を知ることが大切。
- ◎身近で多様な人々とふれ合う機会をつくれるよう、日常的に関わる人を探して依頼しておく。(人材バンク)
- ◎町探検の前には、スムーズな探検ができるよう、お店や町の人に依頼したり、事前の打ち合わせをしたりすることが必要。

保護者への 協力依頼の手紙

▷ P26 ③参照

Page 1 of 1

お店や町の人への 探検依頼の手紙

▶ P26 ④参照

廢材集めの依頼

虎竹茶の販賣

○集めくもつ物

〈例〉

ペットボトル、

牛乳パック, カップ,

ラップの芯 など

※家庭で集める期間

が十分に取れるよ



ワンポイント
博士のアドバイス

- 児童の成長に関わる単元は、いろいろな家庭事情があるので配慮が必要。
- 学習前に単元の趣旨を家庭に知らせ、理解や意見を求める手紙を出すことも大切。

生活科の視点から見た教室環境のポイント

教室は一人ひとりの子どもの気付きを生み、その気付きを交流する最適の場です。交流を促したり、気付きを高めたりすることができるよう、教室環境を工夫しましょう。

☆ 揭示物を工夫しよう

- ・季節を感じることができるもの
- ・学校探検マップ、公園マップ、町の探検マップ
- ・思い出列車など、月ごとのできごとを書いてあるもの
(年度末にクラスや一人ひとりの成長を振り返ることで、自分の成長への気付きにつながる)
- ・一人ひとりの記録カードを入れる生活科ファイル(互いの発見を共有し合い、新たな気付きのきっかけとするために、子どもたちが自分で入れられる高さに掲示する)
- 😊 諸感覚を使うことができるよう、視点を与えた掲示を心がけます。
- 😊 子どもたちの発見を掲示することで自分も見つけたい、知らせたいという意欲が高まります。

☆ 製作材料をストックしておこう

製作材料はたくさんあるほうが活動意欲は高まります。早めに材料集めを始めましょう。次にあげたものを用意しておくと活動が行いやすくなります。

ラップの芯、牛乳パック、ペットボトル、空き箱、発泡スチロール、カップ、空き容器、空き缶、わりばし、毛糸、ストロー、リボンなど

😊 教室の児童用ロッカーに置いておくと、子どもたちも使いやすくなります。スペースがない場合は、生活科ルームに置いておくと良いでしょう。

☆ 話し手に注目させることができるような、移動可能な発表用の台を備えておこう

😊 自分の発見を伝える意欲を高めたり、話し手に注目させたりすることで、話す・聞く力を育て、表現力を高めることにつながります。

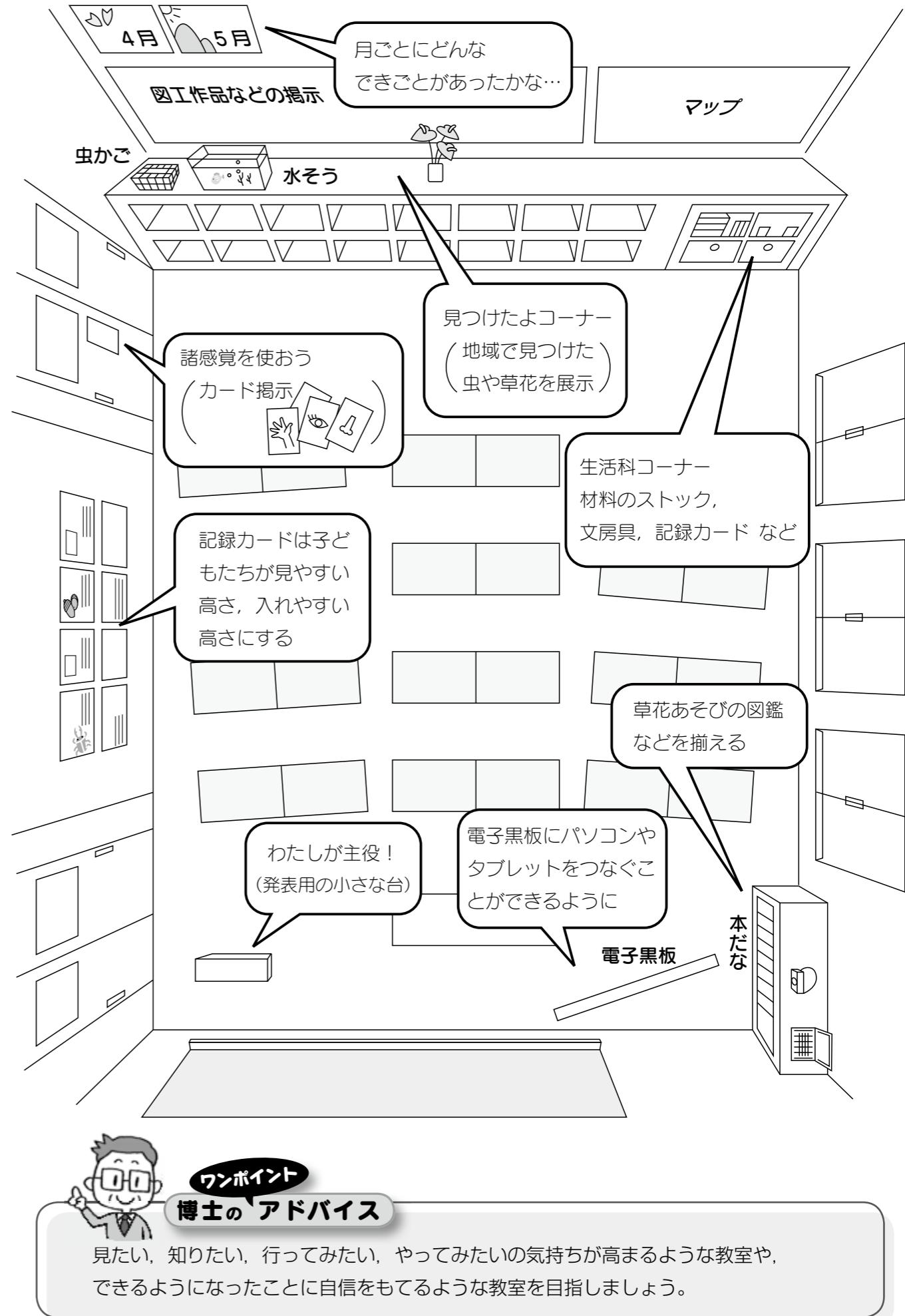
☆ 子どもたちが自由に使えるペンやマジック、折り紙や記録カードを入れる引き出し棚を用意しておこう

😊 子どもが気付きをすぐに表現できる環境を整えておくことで、自分の気付きを確認し、深めることができます。

☆ 電子黒板にパソコンやタブレットを接続できるようにしておこう

😊 子どもたちが見つけてきた生き物や植物、製作した作品などを映すことにより、子どもの活動意欲が高まり、気付きの共有につながります。

😊 映像や音を使って、思いや願いを引き出す仕掛けにします。



伝え合い活動を充実させるためのポイント

○ 伝え合い活動とは

☆子どもが、自分の思いや願い、体験から気付いたこと、思考したことなどを他者（身の回りの多様な人々）に発信し交流する活動です。

☆他者と双方向性のあるコミュニケーション活動をさせることが大切です。

☆伝え合う活動が充実することで、個々の活動がより深く、広がりのあるものになり、気付きの質も高まります。また、個別の学びを互いに共有することができます。

○ 伝え合い活動を学習過程のどの場面で設定すればよいだろう

伝え合い活動は、課題設定の場面や、課題探究の場面、活動全体を総括し振り返る場面など、学習過程のさまざまな場面で行うようにします。

課題設定の場面での伝え合い

【学級全体で】

きっかけをもとに話し合い

「～できそうだ」
「～作ってみたい」
「おもしろそう」
「～こうすればできる
んじゃない」など

【グループで】 試す

「～だからすごいんだね！」
「わたしにも作れそうだ（できそうだ）」



自由に自分の思いや願いを伝え合ったり、試しながら感想を伝え合ったりする中で、イメージをふくらませて、活動への意欲を高め、課題を明確にしていきます。

課題探究の場面での伝え合い

【ペアで】 【グループの中で】

【グループとグループで】

教え合い、実物や具体物を前にして情報交流、活動しながら相談、中間報告会、意見交換
「～みたいだね」「わたしと一緒に」
「なるほど、そうすればいいんだ」
「わたしもしてみよう」「ここを変えてみよう」



自分と比べて、似ているところや違うところを意識しながら伝え合うことにより、活動の対象を見つめ直したり、自信をもったり、活動を軌道修正したり、新たな課題を見つけてでき、活動が発展し気付きの質が高まっていきます。

伝え合う対象……学級や学年の友達、異学年の子ども、幼児、地域の人、お世話になった人、ゲストティーチャー、保護者など

伝え合う方法・提示の工夫

- 記録カードを提示しながら（電子黒板などを活用して大きく提示）
- 写真や動画を見せながら
- ポスターや新聞などにまとめたものを示しながら
- 実物を見せたり、実演したりしながら
- マップを活用しながら
- 劇化・動作化・ペーパーサークなどの身体表現を交えて

伝え合う場……教室・多目的室・体育館・運動場

活動全体を総括し、振り返る場での伝え合い

【学級・学年全体で】

発表会



【グループとグループ（個人）】 【幼児・異学年の子ども・地域の人々】

ポスターセッション



発表会 グループ活動



教師は、「伝え合い」の場面での子どもの気付きや考えを可視化できるように板書によって整理・分析していくことが大切です。そして、一人ひとりの気付きや獲得した知識・技能を、意味付けたり、関連付けたり、価値付けたりして、質的に高めます。また、個々の気付きを全員で共有することで、集団としての学習効果も高めるようにします。

自分の良さ・友達の良さへの
気付き
自信・意欲の向上

身の回りの多様な人々からの賞賛

幼保小連携を充実させるためのポイント

○ 幼保小連携の意義とは

☆幼稚園や保育所、認定こども園で培ってきた心情や意欲・態度を小学校生活において十分發揮し、幼稚園・保育所などから小学校生活へのスムーズな移行を促すことができます。
☆幼稚園や保育所などの主体的な遊びを中心とした総合的な指導と、小学校の各教科の指導について相互理解を図ることで、幼稚園・保育所などの子どもと小学校児童の双方向の学びが期待できます。

○ スタートカリキュラムとは

☆小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を發揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムのことです。

基本的な生活習慣を身に付けることに重点を置き、週単位でめあてを考えます。

1週目 1日の学校生活の様子がわかる。				
	月	火	水	
1	生活（教室探検） ・好きな遊び ・ロッカーの使い方 ・朝の準備の仕方	生活（教室探検） ・好きな遊び ・机の中の整理 ・お道具箱の使い方	生活（校庭探検） ・春見つけ ・発表の仕方	
2	生活（教室探検） ・トイレの使い方 ・手の洗い方 ・はじめまして	生活（教室探検） ・元気なあいさつ ・返事の仕方 ・手の挙げ方	体育（みんなで遊ぼう） ・ならびっこ ・服の着替え方	
3	生活（校庭探検） ・みんなで遊ぼう ・遊具の使い方 ・くつの揃え方	生活（教室探検） ・学習の準備の仕方 ・数字の歌 ・数当てゲーム	図工（好きな絵） ・クレパスの使い方	
4	・給食の用意の仕方	・給食の食べ方	・給食のおかわりや後片付けの仕方	



生活科を核とした単元を構成し、合科的な活動を15分を単位として考えます。

幼保小交流で大切なこと

- ★交流を学習の一環として教科の指導計画に位置付けます。
- ★小学校の活動のめあてと幼稚園や保育所、認定こども園の活動のめあてをすり合わせて、具体的な活動内容を相談します。
- ★招待された側がお客様状態にならないよう、幼保小それぞれの子どもが活躍できる場面や双方の意見や感想を交流する場面を取り入れるようにします。



（交流の年間計画の例）

小学校主催	幼稚園・保育所・認定こども園主催
はじめまして！ 公園で遊ぼう	6月
	7月 プールで水遊び
運動会のダンスを披露	9月 運動会のダンスを披露
秋フェスタへようこそ	11月 作品展へようこそ
昔遊びをしよう	1月 一緒にたこあげ
小学校は楽しいよ（学校案内など）	2月 （授業・給食・清掃参観など）



- ★活発に交流するためには、子ども同士の親近感をもたせることが大切です。
- 交流前に、互いの顔カードや名札を作つて交換するなどの取り組みを重ねることで次第に親しく交流できるようになります。
- ★年間計画を充実させるためには、まず幼保小の教師同士の交流を密にすることも大切です。

気付きの質を高める授業づくりのポイント

生活科は、具体的な活動や体験の中で子どもたちの気付きの質を高めるという特質があります。例えば、アサガオを育てる活動を行う中でアサガオとの関わりを深め、アサガオの成長への気付きが、世話を続けることができた自分自身の成長への気付きへつながるのです。

そこで、以下の視点から、気付きの質を高める授業づくりのポイントを確認してみましょう。

指導計画の視点から

- 体験や活動が、一人ひとりの子どもの思いや願いの実現に向けた探究的なものであり、充実したものとなっているか。
- 子どもの興味・関心を喚起し、自分との関わりが感じられる学習材であるか。
- 直接体験と振り返り表現する学習活動が繰り返されるように単元が構成されているか。

活動の支援から

- 肯定的な言葉かけ(なるほど、おもしろいね、きっとうまくいくよ)の上に、考えを整理したり明確にしたり、問い合わせを生む言葉かけ(どこまでできたの、何が違うのかな、比べてごらん)をすること。
- 見つける、比べる、例えるなどの多様な学習活動を工夫すること。
- 「友達が見つけたことで、おもしろいなと思ったことや、すごいなと思ったことを考えながら聞きましょう」「こんなところを工夫したら、もっとおもしろくなると思ったことを教えてあげましょう」など、めあてをもたせて話し合いをすること。
- 記録カードをその子の思いや願いがどこに現れているかという観点から見るようにすること。
- 「発表すること」自体が主たる目的にならないように留意すること。

場の設定

- 試行錯誤や繰り返す活動を設定する。
- 記録カードなどを常時見られるように掲示したり、地域の自然の草花や生き物を教室に持ち込んだりする。
- 友達と気付きを共有したり、個々の気付きを関連付けたりする交流の場をつくる。
- 具体物を準備したり、現場に近い状況で交流したり、子どもの意見を視覚的に整理したりするなどの配慮をする。
- あらかじめ子どもの気付きや考え、つまずきなどを想定しておき、意見の対立場面や意見に共感・支援するような場面を仕組むなど、話し合い活動を構成する。



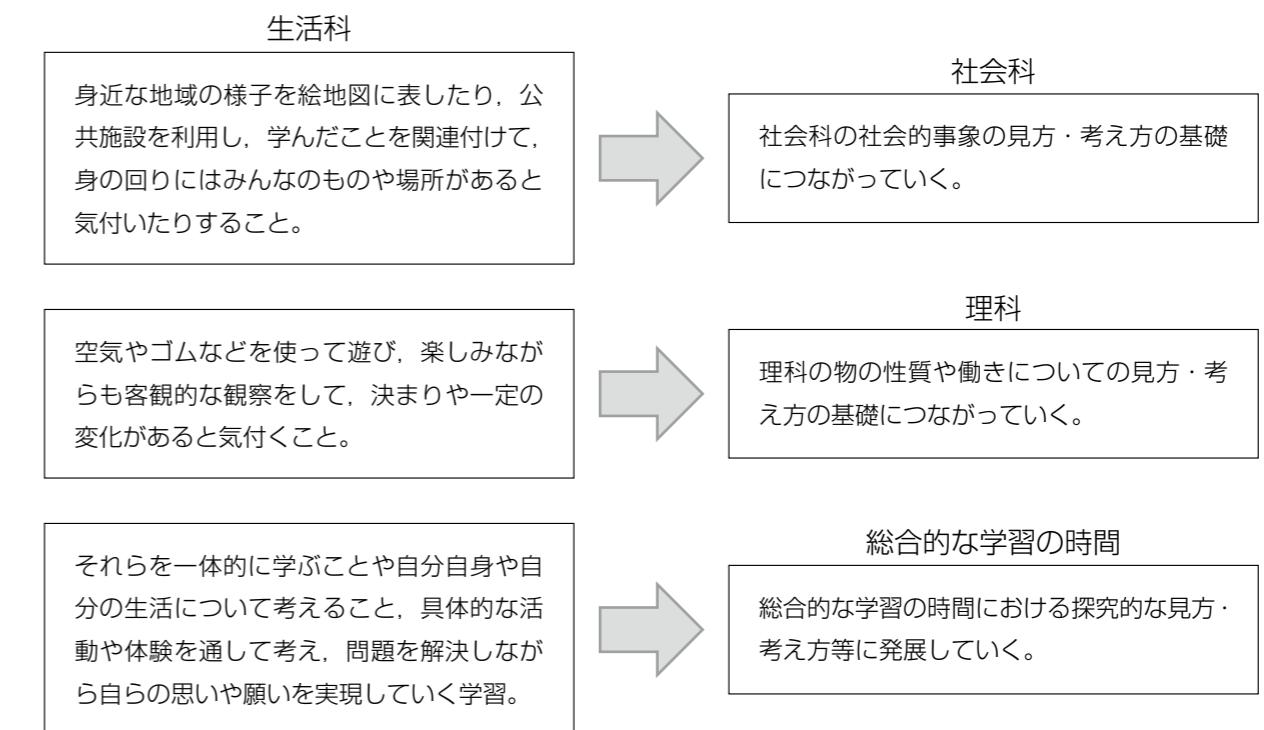
中学年以降の学習とのつながりのポイント

1 生活科の充実が中学年以降の学びを支える資質・能力の育成につながります。

低学年の時期に、思いや願いを存分に發揮しながら体験を通して学ぶことで、中学年以降の学びを支える資質・能力を育成していくことにつながっていきます。中学年は、社会科や理科の学習が始まることなど、具体的な活動や体験を通じて低学年で身に付けたことを、より各教科の特質に応じた学びにつなげていく時期です。指導事項も次第に抽象的になっていく段階であり、こうした学習に円滑に移行できるよう指導上の配慮が必要です。そこで、低学年においては、低学年の児童の未分化で一般的な学びの特性を生かし、幼児期に育まれた資質・能力を發揮するとともに、体験と言葉を使って学ぶなどの特性を踏まえた生活科の学習の充実をはかるように心がけましょう。

なお、指導計画を作成する際には、子どもの発達の段階に配慮しながら、単に中学年の学習の前倒しにならないように留意することが大切です。

2 生活科と中学年以降の教科等との関連を見通しましょう。



生活科における、自分との関わりで身近な人々や社会、自然の事物や現象に直接触れ、親しみや興味をもつ学習は、社会科や理科の学習内容に関連しています。生活科は、学習の内容的な側面と方法的な側面で、中学年以上の教科等に深く関連していると言えます。

生活科の指導におけるICT活用のポイント

1 情報機器を取り入れるよさ

「文部科学省『生活科・総合的な学習（探究）の時間の指導におけるICTの活用について』2020」では、情報機器を取り入れる利点を示しています。

学習対象への興味や関心を喚起や、記録した情報をもとにした伝え合いの充実

- ・個々の思いや願いに応じて、学習対象を視覚的に分かりやすく提示することが可能となる。
- ・様々な場所を調べたり利用したりする過程で、そこで出会う「人・もの・こと」について多様な情報を記録し、その後の伝え合いに生かすことが可能となる。

活動後に自らの取組を客観的に振り返り、活動のよさに気付く

- ・活動や体験に没頭してきた児童が、その後の振り返り活動において自分たちの行為を客観的に振り返ることが可能となる。



2 発達の段階や特性に配慮する

低学年児童の発達の段階や特性に十分配慮して振り返りや表現に活用するなど、計画的に情報機器を取り入れることが重要です。

(4)学習活動を行うに当たっては、コンピュータなどの情報機器について、その特質を踏まえ、児童の発達の段階や特性及び生活科の特質などに応じて適切に活用するようすること*。

低学年の児童の発達の特性は、人、社会、自然を一体的に感じ取り、自分との関わりで捉える傾向がある。また、発達段階的に情報機器の操作に戸惑う児童も多いことが予測される。そうした児童の発達の段階や特性を十分配慮して、計画的に情報機器を取り入れることが重要である。

*小学校学習指導要領解説 生活編



○ おすすめのICT活用場面

学校と生活

電子黒板で学校の施設の様子や学校生活を支えている人々の写真を紹介。学校探検への思いや願いをもつ。



家庭と生活

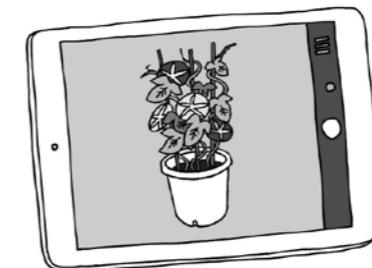
家庭での活動の様子を保護者の協力のもと、タブレットで撮影し、電子黒板に投影して紹介し合うことで、自分にできるることを考えさせる。

地域と生活

町探検でお世話になった地域の方に動画でメッセージを伝える。それを地域の方にメールで送信することで親しみや愛着を深める。オンラインでの双方向の交流もよい。

季節の変化と生活

近くの公園で春探しや秋探しを行う際に、タブレットで公園の様子を撮影することで、季節ごとの自然の特徴や変化に気付くことができる。

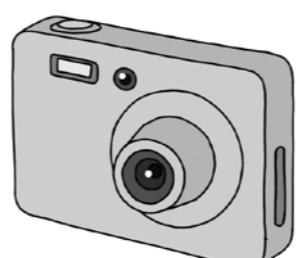


公共物や公共施設の利用

公共物や公共施設を利用した活動の様子をタブレットで撮影し、電子黒板で紹介し合うことで、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができる。

自然や物を使った遊び

タブレットに表示された身近な自然や物を使った遊びの写真から、遊びへの思いや願いを高める。



動植物の飼育・栽培

動物を飼ったり植物を育てたりする活動で、その様子をデジカメやタブレットなどで記録することで成長を捉えることができる。

自分の成長

自分の成長を振り返る手作り（写真・絵・物）を、実物投影機でスクリーンに投影したり、電子黒板に投影したりして、紹介し合うようにする。

生活や出来事の伝え合い

伝え合う活動を教師が記録し、それをもとに児童が自分の姿を客観的に振り返ることができる。

生活科におけるものづくりのポイント

○ 生活科における「ものづくり」とは

- ・「やってみたい」「どうしてだろう」と子どもたちが興味・関心を高める活動。
- ・子どもたちの思いや願いがいっぱいいつまつた活動。
- ・子どもたちの試行錯誤から生まれた気付きを生かしていく活動。
- ・どうしてそのように作ったのかという「理由や根拠」をもち、それを他者に伝えたり、さらに改良したりと自分の考えを高めていく活動。



ワンポイント 博士のアドバイス

気付きの質を高めたり、深めたりするには、作ったものと関わることがとても大切。その関わりの一番は“遊ぶ”こと。“遊ぶ”時間の十分な確保が大事です。



作る・遊ぶ・比べる

もっとこうしたい (思いや願いの表出)

教え合う・伝え合う

一人で“ものづくり”

- イメージを絵にしてみる、話してみるなど自分自身が作りたいものをイメージし、表現します。まずは、自由にたっぷり遊ぶことが大切です。



- おもちゃ作りの経験が少ない子どもが多い場合には、あらかじめ教師が何種類かのおもちゃを作っておくようにします。しっかりと遊ばせて、こんなおもちゃを作つてみたいという気持ちを高めておきます。

友達と“ものづくり”

- 「どうやって作ったの」「どうしてそんなによく回るの」など自分と友達を比べます。

その上でさらに、工夫したり、改良したりと“ものづくり”を深めていくことができます。



- 「作る一遊ぶ（試す）一作る」という活動を十分に保障する時間を設定するようにします。
- 作ったものでのびのびと遊べる場所を確保しておくようにします。

教え合う・伝え合う

- 遊びを通じて、学びは広がり深まっていきます。
- ワークシートや作ったものを見せ合い、教え合ったり、伝え合ったりできる場を意図的に用意することで学びがさらに深まります。



見せたい！知らせたい！ (他者との関わり・自己認識)

「作ったもの」からさらなる

「作りたいもの」が生まれる

- 子どもたちは、自分で、もしくは友達と作って遊ぶと「もっといいものを作りたい」と思うようになります。そして、「こんなにいいものができたんだから、だれかに見せたい！一緒に遊びたい（知らせたい）」と願うようになります。そうなると、招待状を作ったり、お店屋さんにするなら看板を作ったりと、「ものづくり」から発展させる活動が生まれます。
- お店屋さんや教室の飾り付けなどの遊び場の準備を考える際には教科書を見せることで、活動を具体的にイメージすることができます。
- 作ったおもちゃや飾りを展示しておくことで、友達のおもちゃや飾りに関心をもたせ、みんなで遊びを楽しむことへの意欲化が可能となります。



作る・遊ぶ・比べる

相手意識をもった“ものづくり”

- 自分から始まり、他者へと広がることで、今まで作っていたものに対して、「もっとこうしたい」という思いに「相手意識」が生まれます。

- 「分かりやすく説明したい」「すごさを分かってもらいたい」といった様々な「相手意識」を足場に、さらなる工夫や改良がなされています。



～資 料 編～

生活科では、子どもたちが自分の願いを実現していく中で、様々な用具を使う経験をさせていき、正しい道具の使い方ができるよう指導することが大切です。

また、子どもの学習環境を十分把握し、適切な安全管理を行うことが大切です。子どもたちの移動が安全で速やかにできるよう、不要な物は置かない、学習活動に支障のある机、床、壁などの突起物（釘、ヒートンなど）に留意することも大切です。

用具の特性をよく理解して、子どもの思いを受けとめて活動がスムーズに進むように支援しましょう。

切 る

安全のため、正しい使い方を身に付けましょう。特に手渡すとき、使用後の片付けも徹底しましょう。活動のたびに繰り返して指導します。

○ はさみを使って



切るものを、利き手と反対の手で固定します。
刃の中心を当てて切ります。
刃が寝た角度で使用していないか気をつけます。

はさみの状態を見直しましょう。
利き手に合ったはさみを使っていますか?
刃にのりがついたりさびたりしていませんか?
切る材料に合ったはさみを使っていますか?

割り箸を切りたい！

はさみで少し切り込みを入れてから折るときれいに切れます。
はさみで最後まで切ろうとすると刃が傷つきます。

○ 手を使って



- ①切りたい線に合わせてしっかりと折り目を付ける。
- ②折り目を割くように左右に引っ張る。



定規を当てても
いいね！

○ 段ボールカッターを使って



切るものを、利き手と反対の手で固定していますか?
刃の向きは正しいでしょうか?
手前に引くときに力を入れていますか?

段ボールは、通常のカッターを使うと切りにくく、けがの原因にもなります。



一度に切ろうとしないで、何度も同じところを繰り返し切つていきます。

○ こんな道具もあります。目的や材料によって使い分けましょう。



コンパスのように円を描き、切り取ることができます。
コマ作りなどに便利

円切りカッター



針金を切るときに使います。

この部分で切れます

ペンチ

○ こんなはさみもあります。利き手や材料によって使い分けましょう。



左利き用はさみ



ペットボトル用はさみ



布用はさみ



糸用はさみ



万能ばさみ

貼る

木や紙、布を接着することは製作活動に欠かせません。貼り合わせたい素材ごとに適した接着剤を活用しましょう。接着するものと接着剤の特長などをよく知っておくことが大切です。

紙と紙



のり

紙が薄いほど、でんぶんのりが良いでしょう。

- ①新聞などを敷き、のりが机に付かないようにする。
- ②指先を使って、端まで伸ばす。
- ③中心から外側に向かって、空気を抜くようにゆっくり貼り合わせていく。

水のりは、薄い紙の場合、水分を含みすぎて破れやすくなることがあります。

スティックのりは便利ですが、粘着力が弱く、はがれやすい欠点があります。



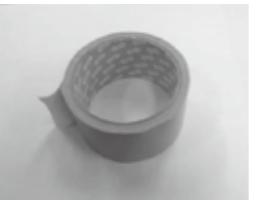
グルーガン（ホットボンド）

表面の凹凸にも対応でき自然の素材に適しています。

強い接着力はないため、重力のかかる掲示の仕方をする場合は、短期間に設定します。

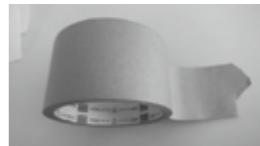
使用中は本体や接着剤そのものに熱が加わるため、触らないようにしたり教師と一緒に使用したりする配慮が必要です。

こんな道具もあります



ガムテープ
(布素材)

布素材は接着力が強く、しっかり固定できます。上からマジックなどで文字を書き入れることもできます。はがしにくく、やり直しは難しい欠点もあります。



ガムテープ
(紙素材)

紙素材は接着力が弱いので子どもには扱いやすいです。

水をはじくため、文字を書き入れることはできません。

重ねて貼ることができないことも欠点です。

厚手の紙と木材や布



木工用接着剤

木工用接着剤が適しています。

- ①素材の端に薄く塗る。
 - ②乾くまでせんたくばさみなどで固定しておく。
- ※凹凸のあるものは接着しにくいので、万能接着剤を使いましょう。

発泡スチロール用・金属用・ゴム用など、強力なものも市販されています。材料に応じた接着剤を使います。はがれなくなることもあるため、取り扱いには留意します。



ビニルテープ

色が豊富なので、接着しながら飾ることができます。おもちゃ作りや、作品の色分けなどに活用できます。はがした後、粘着面が残りやすいので、壁などはがれて困るものには使用しないようにしましょう。



両面テープ

プラスチックやアクリル板などに紙を接着することや、写真など、のりやボンドの水分を含ませたくないものに適しています。手が汚れない点でも便利です。

立体作品の仮留め



セロハンテープ

立体作品の製作途中で裏側から貼り合わせたり仮留めをしたりするときに適しています。時間が経つとはがれやすいことや、よごれが付着していると接着できないことから、主な接着材料として使用するには不向きです。



カバーフィルム

ブックカバーにも使用できる、薄いテープです。保護したい面に貼ったり、凹凸のあるものを固定したりするときに便利です。



ラミネート

押し花や作品を型崩れなく保存できます。長期間保存したい紙にも適しています。

あ け る

穴を「あける」という作業も「切る」と同様に危険が伴います。教師が材料に合わせて穴をあける道具を選び、安全管理を徹底しながら、できれば子どもたちにも体験させたい活動です。

どんぐりごま、どんぐりネックレス、どんぐり人形など、どんぐりを使って様々なものを作るときに、やはり「自分で穴をあける！」という経験はとても大切です。

○ どんぐりに穴をあける

どんぐり用穴あけ機は、低学年の中でも簡単・安全に穴をあけることのできる道具です。



- ①付属の置き台に、どんぐりの実を置いて、穴をあけたいところに、先に少し穴をあけます。
- ②ハンドルを一番上まで上げて、どんぐりをのせた置き台を円の真ん中にのせます。
- ③ハンドルをゆっくり押して下ろし、ドリルの刃の先が、先ほど少しあけた穴のところにくるように調節します。
- ④あとはハンドルを回せば、穴があきます。

- ・ドリルの刃の下に指を入れないように、指導してください。
- ・使わないときは、ドリルの刃を台に着くまで下ろしておきます。

☆表面がツルツルしているどんぐりは、きりなどで少し穴をあけておくとやりやすいです。

きりとゴム板を使っても穴をあけることができます。



- ①どんぐりに穴をあけるときは、写真のような専用のゴム板を使うと、どんぐりが転がらず簡単に穴をあけることができます。
*ゴム板の下に、机を傷つけないように何か敷きます。
- ②ミニぎりなどで少しだけ穴をあけておくと、よりやりやすいです。
- ③両手で下向きに力を入れます。

- ・板をしっかりと固定するとやりやすいです。
- ・使わないときは、必ずきりにキャップをしておきましょう。

○ きりを使って穴をあける

例えば「ペットボトルカーラー」、「ペットボトルじょうろ」や様々なものを作ることができます。

基礎づくりや招待状、カード、飾りなど、紙や段ボールに穴をあけることは多くあります。また、紙でできた箱は“ものづくり”によく用いられます。



- ①下に発泡スチロールなどを敷いて机を傷付けないように工夫します。
- ②きりの刃先を穴をあける位置に垂直に立て、柄じりを軽くたたいて打ち込みます。
- ③柄を両手ではさんでもむように下向きに力を入れます。

- ・ペットボトルなどの転がりやすいものに穴をあけるときは、下にぬれぞうきんなどを敷いておくと安全です。柄は短めに持ちます。
- ・プリンカップなどの厚めのプラスチックは、割れてしまうことがあります。

○ その他のあけ方

- 段ボールカッターを使って穴をあけることができます。大きい穴をあけるのに適していますが、小さい穴は子どもたちにとっては少し難しいです。また丸く切ることも力がいります。
- 千枚通しを使うと、簡単に小さい穴をあけることができます。ここから、ハサミを入れて、穴を大きくしていくことができます。
- 紙なら、型抜きホチキスやパンチが簡単にいろいろな形やきれいな丸をあけることができます。

○ その他の道具

- | | | |
|-------|---------|---------|
| ・目打ち | ・ハト目パンチ | ・穴あけパンチ |
| ・ねじり | ・くぎ | ・コンパスの針 |
| ・画びょう | ・つまようじ | ・竹ぐし |
| | | など |

保護者や地域の協力を得るために

おもちゃを通して交流する場のつくり方

1 令和〇〇年 6 月〇〇日

1 年生保護者の皆様

○○○○○○○○○○○○
校長 ○○ ○○
第 1 学年担任一同

公園探検センター大募集

1 月〇〇日（火）、1 月〇日（水）に生活科の学習で公園探検を行います。
一人ひとりの子どもが、自分の行きたい公園を決めてグループごとに探検します。
クラスの仲間はずして活動しますので、行き帰りの安全確保のため、ぜひ保護者の方のご協力ををお願いしたいと思います。各担任が先頭を歩きますので、子どもたちが安全に歩くよう助言をしていただけたとありがたいです。

集合場所 後日お知らせします。

活動時間 9:30 ~ 11:30 (行く公園によって多少、時間に差があります。)

場 所 ○○公園、○○○公園、○○公園、○○○○○公園
○○○公園、○○公園、○○○○公園

※人数の都合上、お子さんと同じ公園に行っていただけるとは限りませんが、ご了承下さい。

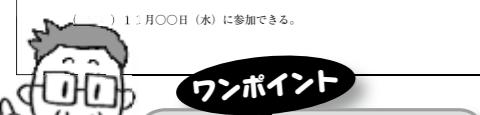
※1 月〇〇日（火）までに下記の用紙にてお返事してください。

1 年 組 名前 _____

() 両とも参加できる。

() 1 月〇〇日（火）に参加できる。

() 1 月〇日（水）に参加できる。





博士の「アドバイス

- ★生活科の学習の様子を学級だよりなどで、家庭に知らせておきましょう。
 - ★学習の様子や子どもの姿だけでなく、生活科の趣旨や活動のねらいも伝えておきます。
 - ★保護者にはどんな協力をしていただかくか、具体的に説明するようにしましょう。
 - ★一つ、どこで、だれに協力をお願いするか、年間を見通した計画を立てておきましょう。
 - ★活動後には、お礼のメッセージを届けるようにしましょう。

2

〇〇年〇月〇日

保護者の皆様

〇〇小学校
校長 〇〇〇〇
1年担任 一科

生活科の学習へのご協力のお願い

日頃より、本校の教育活動へご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、生活科の学習では「じぶんしてチャレンジ大せんせん」(教科書上巻p.84~) 単元の学習を始めます。この学習の主な活動場所は、家庭となります。ご協力をお願ひすることが多くなりますので、なにぞぞろしくお願ひいたします。

【具体的な活動内容】

まず最初に、子どもたちは1日の生活を振り返り、「自分でしていること」や「手伝ってもらっていること」、「家の人が行っていること」などを考えます。この段階で、「家の人は毎日どんなことをしているか」を調べる宿題を出します。洗濯・掃除・買物など、子どもたちがかかる範囲で構いませんので、家庭生活の中にはたくさんの発見があることを伝えたいと思います。

次に、子どもたちは「経験してみたいこと」(自分で「買えるようになりたいこと」)を選んで、家庭で経験する活動を行います。ここで選ぶテーマは個々によって異なります。「朝、自分ひとりで起きられるようになりたい」となどの自分のことは自分でできるようになることを含めて、さまざまなご経験をしてもらいますので、ご家庭では、励ましたりアドバイス、称赞をお願いいたします(教科書上巻p.88~89参考)。

料理やワインなども「危険な作業活動」(挑戦したいお子さんは「申した場合は、一緒に活動を行っていただけます」とあります。お子さん自身が「〇〇で挑戦したい」と命題を考えたのですので、お忙い中、恐れますが、時間のゆきかたでも誰か「見守り」、お付き合いいただけますと大変助かります)。

この学習を実施に、子どもたちは自分の家庭や家族にさらに愛着をもち、容貌を進んで楽しめ、健康で規則正しい生活が送れるようになります。

なお、ご家庭の状況にはそれぞれ違いがありますので、ご事情やプライバシーを尊重する立場に立って指導を進めて参ります。この学習に関して、ご意見や担当へ伝えておきたい事などございましたら、下欄にご記入の上、■月■日までにご提出ください。

----- キリスト様 -----

生活科の学習へのアンケート 年 組 児童名 _____



自由に安全な活動ができるように、活動場所は体育館など、子どもの人数やお店の種類に応じた広さの場所とする。



大きく丁寧な文字と遊びに来た人が
興味をもつようなイラストを使う。



体育館の壁面を使うと動きが大きくなる。お店の内容のポスターも作成し掲示する。



年生や幼稚園児を招待して一緒に遊ぶ。自分の作ったおもちゃで遊ばせる活動や、作り方を教えて一緒に作って遊ぶ活動が考えられる。

3	〇年〇月〇日																																											
保護者の皆様																																												
○○小学校 校長 ○○○○ 2年担任 一岡																																												
町探検の同行ボランティア募集のお知らせ																																												
<p>日頃より、本校の教育活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。</p> <p>さて、生活科では、「とび出せ!町のたんけんたい(教科書下巻 p.28-)」単元の学習を始めます。この学習は、子どもたちが町(学区内)に探検に出かけ、自分たちで町のことを調べたり、町の人(お店の人など)にインタビューしたりする中で、町への愛着を高めていくことをめあてとしています。</p> <p>しかしながら、担任だけでは、安全面の管理が十分とはいえません。そこで、安全面の管理を中心にお手伝いをしていただける保護者の方を募集したいと考えています。「どの曜日・どの時間なら、子どもたちと一緒に町に歩ける?」という予定をお知らせいただきたいと思います。できるだけたくさんの方のご協力をいただけると助かりります。</p> <p>また、子どもたちが見学したり話を聞いたりできる所(学区内のお店など)をご存じでしたらお知らせください。</p>																																												
----- キトリ線 -----																																												
<p>町探検の同行ボランティア募集について</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">年</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">組</td> <td style="width: 80%; text-align: center;">児童名</td> </tr> </table>			年	組	児童名																																							
年	組	児童名																																										
<p>☆ ●月●日 (●) までに担任までご提出ください。 同行をお願いさせていただく場合は、調整後、改めて日時などをご連絡いたします。</p>																																												
<p>A どの曜日・時間も都合がつかない。 B 次の曜日・時間なら協力できる。</p>																																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">曜日・時間</td> <td style="width: 15%;">月</td> <td style="width: 15%;">火</td> <td style="width: 15%;">水</td> <td style="width: 15%;">木</td> <td style="width: 15%;">金</td> </tr> <tr> <td>9:30~</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10:30~</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10:30~</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11:30~</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13:30~</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:30~</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			曜日・時間	月	火	水	木	金	9:30~						10:30~						10:30~						11:30~						13:30~						14:30~					
曜日・時間	月	火	水	木	金																																							
9:30~																																												
10:30~																																												
10:30~																																												
11:30~																																												
13:30~																																												
14:30~																																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">子どもたちが見学したり話を聞いたりできる場所</td> <td style="width: 50%;">連絡先・電話番号など</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>			子どもたちが見学したり話を聞いたりできる場所	連絡先・電話番号など																																								
子どもたちが見学したり話を聞いたりできる場所	連絡先・電話番号など																																											

4

〇〇〇〇様

〇〇小学校
校長 〇〇〇〇
2年担任 一岡
電話番号 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

ご訪問のお願い

日頃より、本校の教育活動へご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。
また、先日より、小学校2年生の「町探検」の学習にご協力いただき、誠にありがとうございます。
下記の日程で、訪問させていただきたく存じます。今回の「町探検」における学習の目的と、子どもたちからの質問内容は以下の通りです。お忙しいところ大変恐縮ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、事前にマナーに関する指導はしていますが、失礼な行動や他のお客様へ迷惑な行動が見られましたら、遠慮なくご注意いただきますよう、お願い申し上げます。

【学習の目的】

- 町のさまざまな場所を探検したり利用したりする活動を通して、町の場所やそこで生活したり働いていたりしている人々がいることを知り、自分の生活がそれらの人たちと関わっていることに気付く。
- 自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることがわかるとともに、それらに親しみや愛着をもち、正しく利用したり安全に生活したりすることができるようになる。

訪問の日時 〇月〇日 (〇) 〇:〇〇～〇:〇〇

質問内容



安全への配慮は忘れずに行う。



「きゅうきゅうコーナー」は、遊んでいるときにおもちゃが壊れてしまった場合に利用する。

飼育活動を通して生き物とのふれ合い

○ 飼育活動の意義

☆生き物とのふれ合いや関わりの中で、生命についての新しい発見や出会いができる。

☆思いやりと責任感を育てる。

一つの命について愛着をもって関わることで、その命に対する思いやりの心をもつことができます。自分の損得ではなく、他の命のために活動する経験は貴重なものです。また、「自分が世話をしなければ」という責任感をもつことが期待されます。

☆生き物の自然の姿を学ぶ。

一人またはグループでの飼育活動を行うことで、同じ生き物でも個体差や特徴があることに気付きます。それぞれ違う命をもっていることの実感を、自分や友達の存在に投影できるようになります。

☆様々なトラブルやハプニングから、判断力や解決力を養うことができる。

生き物の生殖や出産⇒生命の不思議さ、尊さを学びます。

生き物のけがや病気⇒体の仕組み、はたらき、命の脆さを感じます。

生き物の死⇒命の尊さ、はかなさ、周囲の人の悲しみに気付きます。

○ 生き物と子どもたちとの出会い方

☆教師がそっと教室に置いてみる。

☆子どもたちが見つけてきた生き物をそのまま飼育する。

☆普段の会話の中から、子どもたちの「こんな生き物がいた。」という声を拾い、一緒に探しに行ってみよう誘う。

☆子どもたちと一緒に遊んだり、学校探検をしたりして、校内にいる生き物に出会わせる。

☆飼育中の高学年の姿を見て興味を喚起したり、話を聞きに行ったりする。

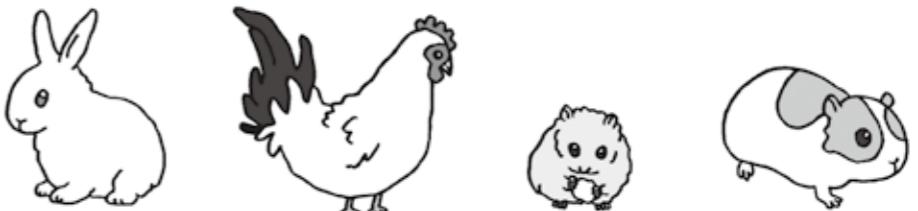
様々な方法がありますが、まず教師が興味をもっている姿を見せましょう。



○ 飼育する生き物の種類について

生活科で生き物を飼育することは、どんな生き物でも良いというわけではありません。身近な自然を感じることが重要です。そのため、昆虫などを飼育する場合は地域の自然の中に棲んでいる生き物が基本となります。また、季節によって生き物の様子は変化します。「同じ場所だけど、今の季節にいる生き物」を扱い、季節の変化を感じさせたいものです。

ウサギやモルモット、ハムスターなどの温かくて毛の生えた動物の飼育は、生命の尊さを実感するというねらいから考えて適しています。



○ 動物が苦手な子どもへの対応

生き物が苦手で最初は触ることができない子どももいると予想されます。無理に近づけようとするのではなく、周囲の友達や教師が楽しんで接している姿を見せながら、観察を中心に参加させます。

観察力を育てながら、少しでも生き物への関わりや心情が変化することを目指しましょう。

○ 教室飼育の最後の形

学年が変わると、または、学習を終えたとき、その生き物をどうするかと子どもたちと一緒にになって考えます。「元の場所へ放す」「誰かが飼育を続ける」「下級生に引き継ぐ」という意見が出るでしょう。

ただし、外来生物を自然に放すことは地域の生態系を乱すおそれがあります。正しい知識のもと、子どもたちの思いを汲み取って話し合いを進めましょう。

An illustration of a scientist with glasses and a lab coat, pointing upwards. To the right, there is a speech bubble containing the text 'ワンポイント 博士のアドバイス' (One-point Doctor's Advice). Below the scientist, the text '休日の対応' (Response on weekends) is written. To the right, there is a block of text with three bullet points: '★飼育可能な児童の輪番制にして連れ帰る。(保護者の同意が必要)' (★For breeds that can be kept,实行輪番制 and bring back on weekends. (Requires the consent of the guardian))' '★地域や保護者のボランティアを募り、預かってもらう。(早めの依頼が必要)' (★Recruit volunteers from the community and the guardian, and ask them to take care of it. (Early request is required))' and '★職員室内で、教員で見守りをする。(飼育方法の伝達が必要)' (★In the staff room, have teachers keep an eye on it. (Transmission of breeding methods is required)).

○ 飼育活動をするときの子どもの健康管理

○動物と接するときの留意点

動物の病気の中には、ヒトと動物に共通して感染するものがあります（人獣共通感染症）。これは、ウイルスなどが動物とヒトの間を往来して、双方に病気を引き起こすものです。病原体の多くは、動物のふん・尿・唾液の中になります。

動物と接するときは、

- ① 接する前に手を洗う。
 - ② 動物と顔を接するなど、過剰な接し方をしない。
 - ③ 必要に応じてマスクを着用する。
 - ④ 接した後は必ず、せっけんで手を洗い、うがいもする。
 - ⑤ 動物にかまれたりひっかかれたりしたら、すぐに傷口を消毒して、養護教諭などに報告し、その後の指示を受ける。

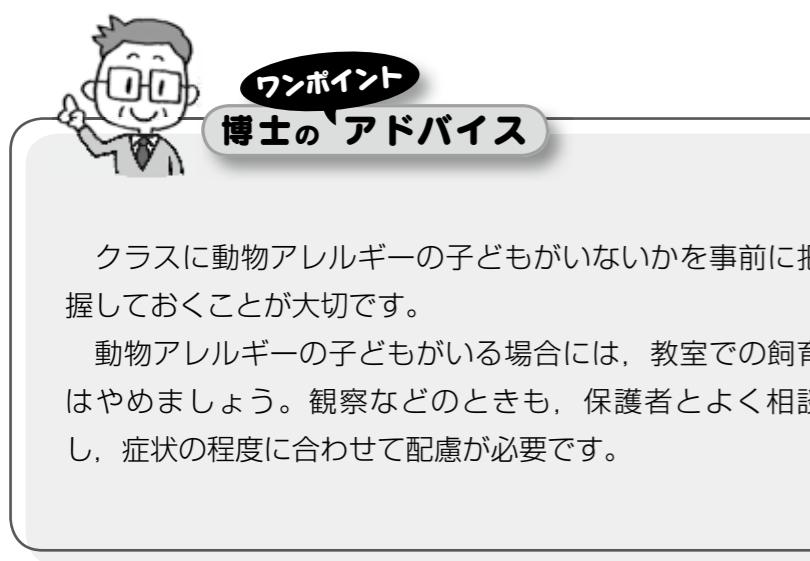


○アレルギーの子どもへの対応

☆動物から人間が影響を受けるアレルゲンは、**体毛・皮膚・唾液・尿**などです。

☆尿については、清掃時に注意すれば、子どもの体に触れることがありません。唾液については、イヌやネコなどに肌をなめさせるなどの行為をさせなければ防ぐことができます。

☆獣医師と日頃から連絡をとり、気軽に相談や治療などをお願いできるようにしておくことが大切です。



○ 気をつける生き物



チャドクガの幼虫

チャドクガの幼虫が大發生すると、側を通るだけでも風に飛ばされた毒毛によって湿疹が出ることがあります。発生を認めたらすぐに寄生した葉や枝ごと切り取って処分します。

（应急处置）

- 粘着テープを貼って皮膚に付着した毒針毛を取り除きます。
 - せっけんをつけて勢いよく洗い流します。



セアカゴケグモ

ベンチの下や側溝の蓋の裏側、ガードレールの支柱付近などといった、比較的地面に近く直射日光が当たらない場所にいることが多いです。メスが毒をもっています。メスに噛まれた部位は、激しい痛みを感じ、その後、噛まれた場所が腫れ、全身症状（痛み、発汗、発熱など）が現れます。

●医療機関での早急な診察が必要です



イラガの幼虫

幼虫に知らずに触れると激しい痛みに飛び上がります。刺激はかなり強く、鋭い痛みの症状は1時間程度、かゆみは1週間程度続くことがあります。

（应急处置）

- まず流水で洗い流し、棘が残っていれば粘着テープで棘を取り除きます。
 - 市販の虫さされの治療薬を塗ります。



ムカデ

森林の落ち葉や土中、朽ち木、石の下などにすみ、肉食性で昆虫やクモを主食とします。噛まれると、かなり激しい痛みがあり、患部が腫れます。ときに、リンパ腺炎を起こし、発熱することもあります。

- 抗ヒスタミン剤、ステロイド剤の入った軟膏などを塗ります。

栽培活動を成功させるために

日常的に関わりながら植物の成長を楽しみ、さらに収穫することによって子どもたちの満足度も大きくなり、気付きの質も高まっていきます。植物を最後まで育てることができた自分に自信をもつこともあります。そこで様々な世話を日常的に行う継続した関わりができるよう子どもたちの目に触れる活動の場を設定することが大切です。栽培活動は、一人ひとりの植木鉢で行うときと、学級園で行うときがあります。いずれの場合も、土作り、種・苗の植え付け、日当たり、水や肥料の与え方、害虫取りなどの活動をできるだけ子どもたちが行うようにしたいものです。

《自分の植木鉢で育てよう》

栽培活動は植物の成長に合わせて世話をすることが大切です。一人一鉢ずつ育てるこにより、子どもたちは、発芽、成長、開花、結実の過程を見通して、そのときにどのような世話をすれば良いのかを考えるようになります。さらに、植物の変化に目を向け、気付いたことを「発見カード」に書いていくことでしょう。こうした活動が、わたしのアサガオ、ぼくのミニトマトというように、植物への愛着心を育てるこになります。

☆土作り

- 栽培の基本は土作りです。基本的には、畳土・川砂・山砂、ピートモス・腐葉土を混ぜ合わせます。一度使用した土はやせているので、乾燥させて、根などを取り除き、腐葉土や牛糞や鶏糞、石灰などを混ぜると栄養のある土に戻ります。
- 園芸店や教材会社から販売されている土を使うことで代用できます。
- 追肥用の肥料も付いており、さらに一鉢に合う分量にされているので、使いやすいです。

☆球根、種、苗について

- 園芸店や教材会社で販売されています。品種改良されているものが増えてきているので、どのような花が咲くのかを確かめてから注文をするのがよいでしょう。
- 地域のJAから入手することもできます。
- 栽培する植物の種類や時期は、学校や地域によって大きく異なります。そのため、子どもたちの先行経験や興味・関心を大切にしながら決めていくようにしましょう。

☆日当たり、置き場所

- 植物は光合成によって養分をつくります。このため、十分に日光に当てるこが大切です。
 - ただし、真夏には、強い日差しにより成長が妨げられることもあるので、強い日差しを避ける工夫が必要です。
 - 日当たりの良い南向きの場所
 - 午前中に日が当たる東向きの場所
 - 午後から日が当たる西向きの場所（真夏は避けたい）
- この順序で選びますが、コンクリートの上に鉢を置くことは避けましょう。

☆水はけ、水やり

- 水が少ないと生育が悪くなり、花が咲かなかったり実がつかなかったりします。植物にとって水は不可欠ですが、過度の水分は生育を阻害します。寒い時期には凍害などの被害を受けやすくなり、暑い時期には根腐れを起こしやすくなります。
- 水やりの基本は、用土が乾いたら用土に十分しみこむようにやることです。しかし、底に水がたまつたままの状態では、根が呼吸するのに十分な酸素が供給されないので、枯れる原因になります。子どもたちの植木鉢の状態を確認し、水のやり過ぎにならないようにしましょう。

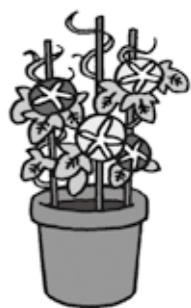
☆肥料

- 植物が育つには、いろいろな養分が必要です。特に窒素・リン酸・カリウムの3成分は必要とする量が多いです。
- 市販されている土を利用した場合は、すでに肥料が混ぜられています。追肥のみ必要です。

◎植木鉢でよく栽培されている植物・野菜の世話のポイント

アサガオ

- 植木鉢の底に大きめの石を入れ、水はけをよくする。
- 畠の土を使う場合は肥料を混ぜてから数日たった土を使う。
- 水やりの際は葉に水をかけない。
- ナメクジやダンゴムシがついていないか、時々鉢裏を点検をする。
- *アサガオの種が発芽しないこともあるので、余分に種を蒔いて、予備の苗をつくっておく。



ミニトマト

- 4月下旬から5月上旬に苗の植え付けをする。
- 脇芽をつむ。
- 植えた後3週～1ヶ月後に追肥。
- 実がつくまで、水やりは控えめに。
- 病気 尿腐れ病（カルシウム不足か水やりのし過ぎ）
ハダニ（双葉の上から水をたくさんかけて防ぐ）
ハモグリバエ（葉に白い筋がつく。幼虫を取る）



*時期は地域の気候に合わせる。



植物の成長の過程で生まれる「なぜ?」「どうしたらよいのだろう?」という子どもたち自身の課題の解決に寄り添いながら支援を続けるようにしましょう。継続的な関わりを通して、自分の花や野菜として愛着が生まれ、栽培活動に対する意欲につながっていきます。

《学級園で育てよう》

☆土作り

- ・花壇や畠で育てる場合は、まず用土をよく耕す事が大切です。耕すことによって、用土に空気を十分含ませ、水はけや水持ち、通気性をよくします。
- ・「天地返し」と呼ばれるように、深く耕すと表面の土が入れ替わり、用土の再生が行われるだけでなく、除菌や殺菌効果もあります。
- ・牛糞や油かすなど動植物を原料にした有機肥料を十分に混ぜ合わせておくと、花をたくさん咲かせ、実を多くつけてくれます。
- ・土作りは、植え付けの1週間前までにしておくと良いでしょう。

その他の球根や苗の入手、水やりなどについては植木鉢栽培と同様の注意をしましょう。

◎学級園でよく栽培されている植物・野菜の世話のポイント

サツマイモ

- 苗の植え付けはゴールデンウィーク明け頃が望ましい。
- 苗の長さの4分の3を目安に3~4節植える。
- 植え付けから3週間後つるが伸びてくる。うねの表面の草取りと中耕を兼ねて、手鍬などで根元へ土寄せをする。
- 植えてから2ヶ月後、茎の天地返しをして(つる返し)、茎から出る根が定着しないようにする。
- 窒素分が多い土だと「つるぼけ」して芋が太らない。
- 輪作を心がける。(長期間繰り返し同じ学級園で作ると地力が低下し、土壌病害虫の発生も多くなる。)
- 収穫は、10月下旬~11月上旬の霜が降りる前に行う。
- 収穫後は4~5日間、日陰で干す(甘みが増す)。

*時期は地域の気候に合わせる。



《観察について》

毎日の出会いを大切にできる子どもたちに育てていきましょう。朝の水やりのときに、育てている植物に「おはよう、今日も元気かな?」と声をかけている子どもの姿が見られるようになるでしょう。

こちらから、「アサガオさん、今日はどんな顔をしていた?」「お水、飲んでくれたかな?」などの声をかけることで、子どもたちの気付きはどんどん広がっていきます。

その気付きを記録カードに書き、子どもたち同士の伝え合いの活動につながっていきます。

《学級園の広さが十分ではないとき》

学校に適切な花壇や畠がなくとも植木鉢やプランター、大きな容器で栽培可能な作物もあります。袋栽培やペットボトル栽培もよく行われています。

持ち運びが簡単で、子どもたちの身近な場所に置けるので、水やりなどの世話も行き届き、植物の様子も身近で観察できます。

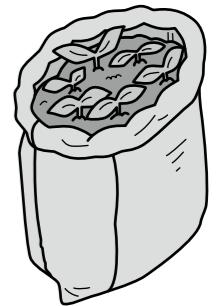
☆プランター栽培について

プランターには小型から大型まで、さまざまなサイズがありますが、育てる野菜に合わせて大きさを選ぶことが大切です。ラディッシュ、コマツナやホウレンソウなどの葉菜類は標準的なプランターでOK。ジャガイモやニンジン、カブ、ダイコンなどの根菜類は、深めで大型のサイズを選ぶようにしましょう。トマト、ナス、ピーマンなどの果菜類は、深さが30cm以上ある、大型の10号鉢以上を選ぶとよいでしょう。鉢の素材は特に選びませんが、大型のプランターの場合は、軽くて移動がしやすいプラスチック製がおすすめです。



☆袋栽培について

使用済みの肥料の袋や米袋などの丈夫な袋を利用します。直接種を蒔くことも、苗を植え付けて栽培することもできます。袋に自分の名前を書くことで関わりを深めます。



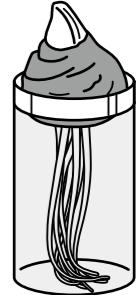
袋栽培で作ることができる野菜の例

春から……トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、枝豆(ダイズ)、スイカ、スイートコーン、オクラ
秋から……ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、白菜、タマネギ、ダイコン、ホウレンソウ、イチゴ、ネギ、ニンジン

☆ペットボトル栽培について

ペットボトル栽培は袋栽培より、持ち運びがしやすいので、ヒヤシンスなどの球根の栽培にもよく使われています。観察や世話の際、自分の机でじっくり見たり触ったりすることができます。教室に並べて置いておけば、子どもたちはお互いの様子や育て方の違いに気付き、お互いの良いところを取り入れて工夫するようになります。

ペットボトルを使ってイチゴの栽培もできます。



モ

